

Slovenia Monthly October 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年11月7日



～11月の主なポイント～

- 内政：** リュブリャナ市長選に、現職のヤンコヴィッチ市長の対抗馬として、SMCのマティッチ氏、S DSのロガル氏等が立候補
- 外政：** シャレツ首相が、ユンカー欧州委委員長及びメルケル独首相等と会談。
ツェラル外相が、マケドニア、ブルガリア及びチェコを訪問
- 経済：** 安川電機、スロベニアのロボット制御ソフト会社「RoboticsX」社と業務提携を署名
- 社会：** スロベニア人の女子クライミング選手ヤーニャ・ガンブレットが世界選手権で優勝

皆様こんにちは。2018年10月16日に駐スロベニア大使として着任しました。前任地はアフリカのタンザニアで今回初めてのヨーロッパ赴任となります。ユリアン・アルプスの大自然と暖かい気候のアドリア海に囲まれ、歴史と文化の多様性に富み、受け継がれてきた伝統の中で先進的技術を創造している中欧国スロベニアで勤務できることを楽しみにしております。

日本とスロベニアは、長年にわたり友好関係を築いてきており、昨年には外交関係樹立25周年という節目を迎えました。



駐スロベニア特命全権大使
吉田雅治

また、当国の良好なビジネス環境を背景に、産業用ロボット、医療用精密ゴム製品、次世代スマートグリッド等の高度な技術を取り入れた日本企業による投資及び科学技術分野における協力事業の進展は非常に喜ばしく、私としましても、その関係を更に発展させるべく尽力してまいります。

文化スポーツ交流では、旧ユーゴスラビア時代より、日本の武道が親しまれ、伝統的な茶道・華道や日本語教育の普及が行われてきたことは、両国の人々にとって貴重な財産と考えます。さらに、ウィンタースポーツを中心として、当地における国際大会やトレーニング参加のために、日本からも多くのアスリートが来訪し、また現在2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ホストタウン交流なども活発化していると伺い、今後ますますの両国関係の発展が楽しみです。

最後に、着任後さっそくブレッド湖などを訪れ、美しい自然とスロベニアが誇る伝統料理とワインを楽しむことができました。観光面でも、日本からの観光客の増加が期待できると感じました。

日本とスロベニアとの関係の更なる発展と在留邦人の皆様のご活躍に資する活動に努めていきたいと考えております。何かご相談がありましたら、いつでもお気軽にご連絡ください。

2018年11月

スロベニア共和国駐劄特命全権大使 吉田雅治

政治

【内政】

●ジュニダル前内相、SMC離党を表明【2日】

ジュニダル前内務大臣は、現代中央党(SMC)率いる前政権の難民問題への対応方針が不十分であったとして、同党を離党することを表明した。同氏は、ツェラル政権の中でも難民対応における強硬派として知られ、度々穏健派の閣僚との間で衝突があったとされる。ジュニダル氏は、国民議会(下院)の総選挙には出馬しなかったが、本年11月の地方選挙前に、同課題にかかるSMC党内の不和を解消することが重要であるとして、自身の離党を表明したと述べた。

●教員組合、賃金引き上げ交渉決裂の際にはストライキ実施を警告【4日】

教員組合(SVIZ)は、12月4日までに政府との賃金要求にかかる合意が達成できなかった場合は、3日間のストライキを実施する旨表明した。同組合は、本年初めにも2度のストライキを実施したが、ツェラル前首相の辞任により交渉が棚上げされていたことに関し、ヴェリチュキ同組合長は、「前政権と合意した内容以下の交渉には応じない」と述べた。なお、ピカロ新教育・科学・スポーツ大臣は、同要求に対して、ほかの公務員と比較して昇進しにくい教員の評価方法は改善すべきであり、適切な報酬を得られるべきであるとの見解を示している。



(写真: Radio Salomon)

●リュブリャナ市長選挙の動向【5日】

現代中央党(SMC)のマティッチ(Mr Dragan Matič)リュブリャナ市議会議員が、11月に予定されているリュブリャナ市長選挙に出馬する意向を表明した。同氏は、市議会の文化委員長を務めており、過去には国民議会議員を務めている。そのほか、同選挙には、9月半ばに、ヤンコヴィッチ・リュブリャナ市長が4期目就任を

目指して出馬を表明しているほか、野党民主党(SDS)のロガル(Mr Anže Logar)国民議会議員、「Good State」党のメキツアル氏(Mr Smliljan Mekicar)が出馬を表明済み。

●ジダン国民議会議長が社会民主党(SD)党首に再選【6日】

連立与党第2党の社会民主党(SD)党大会が開催され、デヤン・ジダン氏が、ほぼ全会一致の賛成253票を得て、党首として再選された。国民議会議長でもあるジダン党首は、「『左派』の台頭を受け、SDの政治志向が中央寄りであるとの印象がもたれているが、SDは常に団結して、弱者を保護しつつ、強固な経済発展を目指す政党である」と強調するとともに、外交においてもEUの枠組みの下、難民・移民支援等を継続し、法の遵守を促進すると述べた。

●前公共行政大臣がSMCを離党【7日】

コプリニウカル前公共行政大臣は、現代中央党(SMC)からの離党を表明した。同氏は、リュブリャナ市内大型商業施設「BTC」の幹部への就任にかかる汚職疑惑

に関し、現在警察による捜査が行われているが、自身は潔白であると訴え、仮に汚職行為が認められた場合は、BTCの幹部ポスト就任は取り消しとなると述べた。オンライン・ニュース「Pozareport」によれば、コプリニウカル氏は、大臣の任期中に、自身の就職に有利な法改正を行い、また、BTCに対して、入札なくして次世代携帯サービスを実証するためのライセンスを付与した疑いがある。

●マリヤン・シャレツ・リスト(LMC)、ALDEグループへの加盟を申請【10日】

「マリヤン・シャレツ・リスト(LMS)」のクラリ事務総長は、同党が、先週、欧州自由民主連盟(ALDE)グループへの加盟申請を行った旨発表した。同事務総長によれば、ALDEは、11月8日から11日にかけて総会を開催し、新規加盟審査を行う予定であり、シャレツ首相も招待を受けている模様。同事務総長は、LMSは、そのリベラルな政治的方向性からALDEへの加盟に関心があり、既に、ALDE側から加盟招待を受けていると述べた。現在、スロベニアでALDEに加盟しているのは現代中央党(SMC)のみだが、アレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB)も準メンバーとして登録されている。

●政党支持率調査でSDSがリード【15日】

日刊デロ紙及び世論調査会社「Mediana」が発表した政党支持率によれば、首位は依然として、野党民主党(SDS)が18.6%(前月比0.7%増)、続いてマリヤン・シャレツ・リスト党(LMS)が1.7%増の8.9%、社会民主党(SD)

が7%(0.4%増)。「左派」は、約1%減らして6%となった。その他、野党新スロベニア・イニシアティブ(NSi)は4.9%、現代中央党(SMC)は4.8%、アレンカ・ブラトウシエク同盟(SAB)は3.7%で、前月比ほぼ横ばい。年金者党(DeSUS)は、前月から支持率を半減し、1.7%となった。「支持政党なし」は22%。同世論調査は、10月3日～11日にかけて、有権者725名を対象に実施された。

●公務員労働組合、賃上げ交渉の行方次第でストライキ実施を警告【16日、19日】

16日、公務員労働組合は、本年3月より棚上げされていた給与交渉を政府が再開しない状況に鑑み、12月4日から予定しているストライキの準備を開始した旨を発表した。労働組合側代表のポチワルシエク代表は、新政権は発足から1か月が経過した現在も、交渉に臨む姿勢を見せていないとして政府を批判。今月初旬には、教員組合が12月4日までに合意に達しなかった場合、同日から3日間のストライキの実施を表明している。

19日、政府は、公務員労働組合との協議を開始した。同協議の結果詳細は明らかになっていないが、政府側のポガチャル交渉官(前労働・家族・社会問題・機会均等副大臣)は、同協議を「建設的であった」と評価した。他方、組合側は、警察官組合は個別の交渉を要求する一方で、各業種を代表する公務員組合全16組合のポチワルシエク代表は、全組合が同一の枠組みの下、交渉に臨むべきとの見解を示しており、内部の方針が固まっていない模様。



(写真: Reuters)

●連立与党、少数民族代表議員との協力協定に署名【16日】

連立与党は、協力協定の締結に向け交渉してきた「左派」が正式調印を拒み、同党が有する9票の支持が得られない中、イタリア系及びハンガリー系少数民族の代表議員との間で協力合意文書に署名した。これにより、全90議席の国民議会において、43票を有するシャレツ政権は、2票の支持を得たこととなる。

【外政】

●スロベニア外務省、マケドニア国名変更に関する国民投票の結果を評価【1日】

スロベニア外務省は、9月30日のマケドニアの国名問題に関する国民投票において、投票者の91.4%が、北マケドニア共和国に国名を変更することを規定したギリシャとの合意を支持したことは、同国国民がEU及びNATO加盟を支持していることを意味しているとの声明を発表した。また、外務省は、今回の投票結果は、本件合意が引き続き履行されるべきものとの有権者の意思の現れとして認識されるべきとの立場を表明した。なお、国民投票における投票率は30%台にとどまり、成立に必要な50%に届かなかった。

●パホル大統領、クロアチア首相と会談【2日】

パホル大統領は、首脳レベルの西バルカン協力枠組みである「ブルドー・ブリウニ・プロセス」の共同創設者として、ジュネーブにて開催された「西バルカン戦略ダイアログ」首脳会合に出席し、同会合において、同地域の安定の鍵となる経済成長及び競争力強化のために、同地域とEU加盟国との間でのビジネス協力拡大を呼びかけた。また、同会合のマージンにおいてパホル大統領は、プレンコビッチ・クロアチア首相と会談し、二国間関係を中心に意見交換を行った。会談後、記者団に対し、同大統領は、「国境問題に関する仲裁裁定は、遅かれ早かれ履行されるであろう。それまでに、友好的な隣国である両国は協力を進めていかなければならない。」との考えを示した。

●NATO事務総長のスロベニア訪問【9日】

ストルテンベルグNATO事務総長がスロベニアを実務訪問し、パホル大統領及びシャレツ首相と会談すると共に、国民議会において演説を行った。同事務総長は、シャレツ首相が、数年内に国防費をGDPの1.5%まで引き上げるよう努力すると述べたことを受け、国防費の増額に期待を表明した。同首相は、共同記者会見において、安全保障環境が急激に変化している中で、NATOのためにではなく、我々自身のために国防費は増額する必要があるとしつつも、目標である2%については、現時点で達成は困難との考えを示唆した。

発見！スロベニア

リュブリャナ近郊のお勧めスキー場

多くの冬季オリンピックメダリストを輩出するウインタースポーツ大国スロベニアには、規模はそれほど大きくはありませんが、数多くのスキー場があります。今回は、スキーシーズン到来前に、首都リュブリャナ近郊の人気のスキーリゾートをいくつか紹介したいと思います。

クルヴァヴェツ(Krvavec、標高1971メートル)は、リュブリャナ中心部から一番近い場所にあり(市内から、ゴンドラ乗り場までは車で30分弱)、総滑走距離25キロメートルを有するスロベニア第2の規模のスキー場です。また、クルヴァヴェツは、国際空港から世界一近い距離に位置するスキー場としても知られており、リュブリャナ空港からゴンドラ乗り場までは約10分強の距離にあります。カラヴァンケ・アルプス山脈に位置するクルヴァヴェツには、初心者から上級者向けの様々なゲレンデがあり、雪質は国内でも一ニを争うスキー場です。



(写真:クルヴァヴェツ、Ski Pass Slovenian Alps)

ヴォーゲル(Vogel、標高1800メートル)は、ポーヒン湖を見下ろす高地に位置し、ジュリアン・アルプスの山々が一望出来るため、眺望はスロベニアのスキー場の中でも随一です。ヴォーゲルは、環境保護区であるトリグラウ国立公園に位置しているため、人口雪の設備はありませんが、国内でも有数の豪雪地帯に位置しているため、通常、5月の第1週頃までの長い期間スキーが楽しめます。ゲレンデは、主に初級者・中級者向けで、総滑走距離は22キロ、上級者には若干物足りないかもしれませんが、山頂からケーブル乗り場まで約7キロのロングランは滑りごたえがあります。



(写真:ヴォーゲル、Primorske Novice)

克蘭スカ・ゴラ(Kranjska Gora、標高1295メートル)は、スロベニアで最も有名なスキー場で、ワールドカップ男子スキー大回転の会場としても知られています。克蘭スカ・ゴラは、総滑走距離20キロとそれほど大きな規模ではありませんが、毎年、欧州の主要紙による「お財布に優しい家族向けスキー場」の投票で上位にランクインしています。殆どのゲレンデは初級者向けですが、ワールドカップが開催されるポッドコレン(Podkoren)のゲレンデは上級者にも楽しめます。また、国内のスキー場の中で、アプレス・スキー(スキーの後のナイトライフ)が楽しめる唯一のスキー場だと言われています。



(写真:克蘭スカ・ゴラ、Total Slovenia News)

なお、スロベニアでは、国内のほぼ全てのスキー場で使用可能なシーズン券Active Slovenia Ski Pass (ESSV)が購入可能ですので、頻繁にスキーをされる方は、シーズン券の購入がよりお得です。

クルヴァヴェツ：<https://www.rtc-krvavec.si/en/>

ヴォーゲル：<http://www.vogel.si/zima/>

克蘭スカ・ゴラ：<https://www.kranjska-gora.si/en/activities/winter-activities/skiing>

Active Slovenia：<http://www.activeslo.com/skipass-slovenia.asp>

●シャレツ首相とユンカー欧州委委員長及びトウスク 欧州理事会議長との会談【10日】

ブリュッセルを訪問したシャレツ首相は、ユンカー欧州委委員長及びトウスク欧州評議会議長と会談し、クロアチアとの間の国境線確定問題を中心に意見交換を行った。同首相は、今回初めてとなる訪問は成功し、全ての会合は建設的且つポジティブなものであったと評価した。欧州委の発表によれば、ユンカー委員長との会談において、両者は、EUの対域外国境の防護が重要であり、域内国境での国境管理措置は徐々に撤廃され、自由に人が移動出来る状態に戻す必要があるとの認識で一致した。

●シャレツ首相、メルケル独首相と会談【12日】

シャレツ首相はドイツを訪問し、メルケル首相との間で首脳会談を行った。メルケル首相は、クロアチアとの国境線画定問題解決に向けた支援を約束すると共に、シェンゲン国境保護におけるスロベニアの役割を評価した。これに対し、シャレツ首相は、スロベニアは、仲裁裁判所による最終裁定を如何にして履行していくかについてのみ(クロアチアと)協議をする用意があるとして、スロベニア外交が本件問題のみに焦点を当てているとする批判については、スロベニアはEUが抱える全ての重要課題の解決に向け建設的に関与していく用意があるとの立場を表明した。



(写真: Žurnal24)

●パホル大統領、EU加盟には西バルカン諸国側の努力も重要と発言【12日】

西バルカン地域の将来、特に地域諸国のEU・NATO加盟につき議論するためにマリボルで開催された「アドリア議会(Adriatic Parliament)」会合に出席したパホル大統領は、EU加盟国は、まずはEU圏内の問題に対処することが重要と考えており、それが、複数の国がEU拡大に必ずしも積極的に取り組んでいない理由であると述べ、西バルカン諸国側も、EU加盟国側に同地域が魅力的な存在となるように努力していかなければならないとの考えを表明した。

発見！スロベニア

スロベニアが「欧州の美食地域2021」に選出

10月8日、スロベニアは、「International Institute of Gastronomy, Culture, Arts and Tourism(IGCAT)」により、ポルトガルのコインブラ地域と共に、「2021年の欧州美食地域(European Region of Gastronomy)」に選出されました。欧州美食地域の選出は、2016年から開始されましたが、国全体が選出されたのは今回が初めてです。授賞式において、ゲノリオ駐ベルギー・スロベニア大使は「スロベニアには24の美食地域、365種類の料理及びそれぞれ地域固有の料理にマッチングする飲み物がある」と述べました。



(写真:Hisa Franko)

また、授賞式に出席したストルニシャ農業・食糧省副大臣は、「我々は、料理を通じてスロベニアのエッセンスを紹介したい」と述べ、長い伝統を誇るハチミツ、古代ローマ時代から飲まれているワイン、アドリア海最北の塩田で造られる塩を挙げた。また、同副大臣は、「テラン種の赤ワイン、クランスカ・ソーセージ、プレクムリア地域のギバニツァ・ケーキ、トルミン産チーズ等、多くの食品がEUレベルで保護されている」と述べました。



(写真: IGCAT)

スロベニア政府観光局は、「今回の受賞は、スロベニアが、サステナビリティを尊重しつつ、食事において五つ星の経験をオファー出来る最高の美食ツーリズムの目的地として世界に知られるための良い機会である」と評価しました。

●パホル大統領のエチオピア及びAU本部訪問【15～16日】

15日、エチオピアを訪問したパホル大統領は、ムラトウ・エチオピア大統領と会談した。両大統領は、二国間関係は良好であるとし、経済協力、貿易及び投資面で両国には無数の協力の機会があり得るという認識で一致した。また、両大統領は、国連等の国際場裡における両国の協力を評価すると共に、EUとアフリカ諸国間の関係についても意見交換を行った。

16日、エチオピアを訪問中のパホル大統領は、ムーサ・ファキ・アフリカ連合(AU)委員長と会談すると共に、AU常駐代表委員会においてスピーチを行い、EUとAUとの間の協力強化を呼びかけた。同委員長は、EUの将来像に関するパホル大統領の考えは、AUとEUとの協力強化の基礎となるとして関心を示した。また、同大統領は、毎年5月にスロベニアで開催しているアフリカ・デー会議に同委員長を招待した。

●シャレツ首相、Brexit交渉の進捗状況に懸念【17日】

EU首脳会合出席のためブラッセルに到着したシャレツ首相は、最近のBrexit交渉の進捗状況に懸念を表明する一方で、「合意に向けた協議を行う時間はまだある」との考えを示した。他方、同首相は、仮に合意が成立しなかった場合につき、「スロベニアはそのシナリオに対応する準備をしている。人生においては、常にプランBを用意しておく必要がある」と述べた。同首相は、Brexit交渉決裂の場合にもEUは一体性を維持していくべきだと述べた。

●シャレツ首相のEU首脳会合出席【18日】

EU首脳会合に出席したシャレツ首相は、同会合の主要議題であった移民問題及びユーロゾーンの将来につき進展は見られなかったものの、結果は一夜にして発現するものではなく、主要課題に関する合意成立には時間がかかるとして、決して無駄ではなかったとの見解を示した。また、同首相は、本国会合において、EUが、クロアチアの対セルビア及びボスニア・ヘルツェゴビナ国境にEU国境警備部隊を展開するという提案を支持すると共に、スロベニアでも流入する移民数が増加傾向にあり、不法入国を阻止するために多大な努力をしていると発言した。

●シャレツ首相がマクロン仏大統領及びメドベージェフ露首相と会談【18日】

シャレツ首相は、EU首脳会合のマージンにおいてマクロン仏大統領と会談し、EUレベルでの協力及びポピュリズム対策を中心に意見交換を行った。報道によれば、両者は、欧州自由民主連盟(ALDE)グループ、マクロ

ン大統領の政党「前進！」及びその他の共通の価値観を有するリベラル政党の協力を通じて、EUレベルでリベラル政党のプラットフォームを構築するアイデアにつき意見交換を行った。また、同首相は、ASEM首脳会合のマージンにおいて、メドベージェフ・ロシア首相と会談し、協力強化に向けた意思を確認すると共に、ロシアへの訪問招請を受けた。



(写真：Daily News Hungary)

●パホル大統領、ハンガリー大統領と会談【19日】

パホル大統領は、スロベニアを訪問中のアデル・ハンガリー大統領と会談し、二国間の経済協力、両国に居住するスロベニア系、ハンガリー系少数民族、EUの将来、難民問題等につき意見交換を行った。両大統領は、両国の貿易高は30億ユーロに近づきつつあるとして経済関係を含む、良好な二国間関係を賞賛した。パホル大統領は、ハンガリー系、スロベニア系少数民族が居住する両国の国境周辺地域における経済活動の強化を訴えた。また、両大統領は、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線の早期建設の必要性で合意した。20日には、両大統領は、西部コバリドにある第一次大戦記念博物館や、同大戦の戦没者慰霊のために建設されたトルミンの教会を訪問した。

●ツェラル外相、サウジアラビアによるジャーナリスト殺害を強く非難【23日】

ツェラル外相は、国民議会外交政策委員会の会合における質疑応答において、サウジ人ジャーナリスト、ジャマル・カショギ氏の殺害は、「前代未聞の人権侵害である」として、「国際社会は、サウジアラビア当局の行動に対し、制裁を科さなければならない」と述べた。また、同外相は、「スロベニアは、殺害を非難し、ジャーナリストの死亡の背景につき速やかな説明を要求した独、仏のステートメントを支持することにより、明確且つ公式な立場を示すべきである」と述べた。

●ツェラル外相のマケドニア訪問【24日】

マケドニアを訪問したツェラル外相は、ディミトロフ外相と会談し、同国によるEU及びNATO加盟手続のための国名変更に向けた努力に支持を表明した。同外相

は、「マケドニアが今後数ヶ月間で行う決定は、同国のみならず、地域全体の未来の世代にとり歴史的な重要性を有する」と述べる一方で、マケドニアに対し、加盟条件を満たすための改革継続を促すと共に、スロベニアによる支援を約束した。ディミトロフ外相は、スロベニアの支援に謝意を表明すると共に、来年、スロベニアが、クロアチアからNATO・マケドニア間のコンタクトポイントを引き継ぐことを踏まえ、スロベニアによる支援の重要性を強調した。

●ツェラル外相のブルガリア訪問【25日】

ブルガリアを公式訪問したツェラル外相は、ザハリエヴァ外相と会談し、両者は、二国間関係は極めて良好であるとして賞賛した。両外相は、難民問題及び西バルカン情勢につき意見交換を行い、地域の安全・安定への共通の利益を確認すると共に、地域諸国のEU加盟努力を支援していくことで合意した。また、両外相は、在ブルガリア・スロベニア大使館の開設式典に参加した。ツェラル外相は、「同大使館は、良好だが更に改善の余地がある経済協力強化に注力していく」と述べたのに対し、ザハリエヴァ外相は、スロベニアによる大使館開設は良好な関係の更なる強化に繋がると評価した。

●ツェラル外相のチェコ訪問【27日】

27日、チェコスロバキア建国100周年記念行事出席のためにプラハを訪問中のツェラル外相は、ペトリチェク・チェコ外相と会談し、法の支配及び多国間主義の役割につき意見交換を行うと共に、強固且つ効率的な欧州に向けた結束を呼びかけた。また、両外相は、難民問題解決に向けた欧州共通のアプローチを支持し、難民発生国での問題解決が重要との認識で一致した。ツェラル外相は、極めて良好な二国間の経済関係を賞賛し、両国は共通の文化・歴史を共有していると述べ、チェコスロバキア時代に同国で積極的に活動したスロベニア人建築家ヨジェ・プレチュニクの業績を強調した。

経済

【コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業関連報道】

5日、ツェラル外相は、ブラトウシェク・インフラ大臣が、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線を、スロベニアのみで建設すると述べたことに対し、「本プロジェクトからハンガリーを除外することを決定する前には十分な審議を行う必要がある」との考えを示した。同外相は、ハンガリーの本件事業への参画は、国庫への負担を2億ユーロ程度軽減するとして、ハンガリーは、本件分野において、クロアチアよりもスロベニアとの間で協力することを選択したことに留意すべきであると述べた。



(写真: Svet 24)

11日、ブラトウシェク・インフラ大臣は、スロベニア政府が、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の実施主体を、インフラ庁から政府が100%の株式を保有する特別目的会社「2TDK」社に移管することを決定した旨を発表した。また、同大臣は、他国の資本参加の有無も含め、本件事業の投資計画を1ヶ月以内に採択するよう閣議で提案するとの立場を表明した。同大臣は、「スロベニアのみでも同路線の建設は可能であると確信している」と述べつつも、「他の1～2ヶ国の参加が付加価値をもたらすと判断された場合には、我々が設定した条件の下で、支持する用意がある」との方針を示した。

12日、インフラ省は、本件事業への投資参加に関するハンガリーとの交渉の記録を公開した。同記録によれば、ハンガリーとの協力は、コペル港湾会社の政府による株式保有率及び経営権に影響を与えないとされており、ハンガリーやその他の国の資本参加率は、スロベニア政府の比率を超えないとの前提で交渉が進められていたことが明らかになった。

【経済一般】

●コペル港湾会社、第一埠頭の延伸許可を取得【3日】

コペル港湾会社は、同港の第一埠頭の100メートル延伸に関する建設許可証を取得した。これにより同埠頭に大型船舶2隻の同時接岸が可能となる。本件工事については、コペル市が環境への影響を懸念し、難色を示していたが、本年7月に同市と港湾会社側が合意に至り、総工費2億3000万ユーロの本件事業が開始されることとなった。同港の現在のコンテナ扱い量は年間約91万トンだが、同港は2020年までに130万トンまで拡大することを計画している。

小さなワイン大国スロベニア

ドレンスカ地域のユニークなワイン「ツヴィチェク (Cviček)」

ツヴィチェクは、スロベニア南部ドレンスカ地域で生産され、モドラ・フランキニヤ(modra frankinja)、ジャメトナ・チュルニナ(žametna črnina)種等の複数の赤ワイン(約70%)とクラリエヴィナ(kraljevina)やラシュキ・リースリング(laški rizling)等の白ワイン(約30%)をブレンドさせて造られる世界的にもユニークなワインです。通常、ツヴィチェクはロゼワインを少し赤くしたルビー色で、ベリー系のフルーツの香りが特徴です。ツヴィチェクのアルコール度数は8.5%から10%と通常のワインよりも低く、若干酸味が強めのドライなワインです。ツヴィチェクは製造から2年以内に飲むことが奨励されており、それ以上経ったものは、新鮮さや華やかな香りが失われ、フラットなワインになってしまいます。



(写真: Deli.si)

ツヴィチェクは、19世紀初頭にカルニオラ(スロベニア中部)がイリュリア州の配下に置かれたことにより、ワイン製造にかかる法制度が機能しなくなり、多くのブドウの木が害虫による被害を受け、残された複数の低品質なワインを混ぜて造られたのが元々の起源です。当時のツヴィチェクは、害虫を避けるために熟す前に収穫されたブドウ、状態の悪いセラーや、不適切なブドウの選定作業等により、極めて酸味が強い低品質ワインの代名詞でした。

1886年に、ブドウ栽培の研究所がノヴォ・メストに開設され、農家に支援を提供するようになってから品質が向上し始めましたが、19世紀に入り、質の低いブドウのみがツヴィチェクに使われるようになると、再び質が悪化しました。



(写真: Worldpress.com)

1991年のスロベニア独立を機会に、ドレンスカ地域のワイン農家は、本格的にツヴィチェクの品質向上に乗り出し、2001年からは、ドレンスカ地域の11のワイン農家で造られるツヴィチェクのみが正式なものとして認められています。2017年にはロンドンの国際ワインコンテスト「デカンター・ワールド・ワイン・アワード」において、Freligh ワイナリーのツヴィチェク(Cviček od fare 2016)が「Award Commended」を受賞し、ツヴィチェクの歴史に名を刻みました。



(写真: Siol.net)

アルコール度数が低く、食事にも良く合うツヴィチェクは、近年、若者層にも健康的なワインとして認識されるようになりました。ツヴィチェクは、スロベニア人が屋外でバーベキューをする際の定番ワインでもあります。毎年、11月11日の聖マルティヌスの日(Saint Martin's Day)にノヴォ・メストにおいて開催される祝賀行事では、ツヴィチェクの新酒が振る舞われます。日本では中々購入が難しいワインですが、是非、スロベニアにご旅行された際には、ツヴィチェクをお試しになっては如何でしょうか。

●IMF, 秋季経済見通しにおいてGDP成長率を上方修正【9日】

IMFは、スロベニアの秋季経済見通しを発表し、スロベニアの2018年のGDP成長率の予測を4.5%（春季は4%）、2019年の成長率予測を3.4%（春季は3.2%）に上方修正した。また、本年の失業率の予測は5.8%、インフレ率は2.1%と予測。IMFによる本年のGDP成長予測は、前月発表されたマクロ経済分析発展研究所(IMAD)の予測4.4%、8月に発表されたスロベニア中銀の予測4.0~4.5%と同様。

●経済開発・技術大臣、観光セクターの民営化推進は重要課題と発言【9日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、観光分野における国営企業の再編成が同省の優先課題の一つである旨を発表した。同大臣は、国内の全客室数の7割を扱い、全観光企業の4割を占めるホテル施設の多くがスロベニア国家ホールディング(SSH)及びバッドバンクのBAMCIによって運営されていると説明し、「同再編成・リストラに対する反発は強く、課題も多いが、スロベニアにおける5つ星体験の実現戦略に基づいて全力を尽くす」との意向を示した。対象となる国営企業は、資本投入による再編成、または、民営化が噂されているが、現時点における計画は不明。

●国民議会、中銀新総裁候補の任命を否決【9日】

国民議会にて、中銀新総裁選出にかかる投票が実施され、候補者のドレンツ現中央銀行総裁代行は、議会90票の内30票しか得られず、同氏の就任は否決された。支持に回ったのは、連立与党から3党及び野党から1党のみで、反対票を投じた議員らは、2013年の国有銀行に対する資本増強にかかる中銀の関与が強かったとして、ドレンツ氏がその中銀の方針の継続を象徴していると批判した。今後3週間の新たな候補者の申請期間が設けられている。

●安川電機、スロベニアのロボット制御ソフト会社「RoboticsX」社と業務提携を署名【10日】

ミュンヘンに本社を置き、産業のロボット化におけるソフトウェアの開発等を行うスロベニア企業「RoboticsX」社は、安川電機と協力してスマート・ロボットの開発を行うためのR&Dセンターをリュブリャナの複合商業・ビジネス施設BTCに開設した。数ヶ月前、同社と安川ヨーロッパ社は、安川電機及びその顧客のために共同でIndustry4.0のソリューションを開発することを内容とする合意を締結した。同社は、当面は、現在コチェウイェで建設中のロボット製造拠点及び来年建設が予定されているサーボモーター等の製造工場のスマート工場化を手がけることとなる。同社のボラス社長(Mr. Peter

Boras)によれば、R&Dセンターでは、現在34名が雇用されているが、半年以内にその倍に拡大し、将来的には、6000平米の敷地に約350名を雇用する計画を有している。

同社は、現在、産業プロセスの自動化、オンライン技術、コミュニケーション・プロトコール、コネクティビティ、AI技術、自動・セルフラーニングシステム等の分野のエンジニアを採用している。



(写真:RoboticsX)

●経済開発・技術大臣、新政権は外国投資誘致に注力していく旨発言【15日】

ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、スロベニア通信(STA)に対して、新政権は引き続きビジネス環境の整備等に注力し、外国投資の誘致に努める旨の方針を強調した。また、同大臣は、「スロベニアのGDPは、昨年(2017年)に、経済危機前の2008年レベルにまで回復し、現在EU平均より高い成長率を記録している」として、今後経済成長の減速が予測される中、これまでの財政規律を維持することが肝要との見解を示した。他方、スロベニア経済は、人材不足の課題を抱えているとの認識に立ち、旧ユーゴスラビア諸国のほか、ウクライナ及びジョージアからの就労者を呼び込む取組を開始したと述べた。

●世界経済フォーラム、スロベニアの競争力は世界第35位【17日】

世界経済フォーラムは、2018年の国際競争力ランキングを発表した。スロベニアの総合順位は140か国・地域の中で第35位を記録し、マクロ経済環境、ビジネス環境、保健衛生、人材の技能向上、イノベーション力等が高く評価された。他方、金融市場、市場規模等で

の評価が低かった。なお、首位は米国、2位はシンガポール、3位ドイツ、4位スイスと続き、日本は5位となっている。

●スロベニア中銀、FDI及びEDIの報告書を発表【19日】

スロベニア中央銀行は、2017年におけるスロベニアへの海外直接投資（FDI）及びスロベニアによる対外直接投資（EDI）に関する報告書を発表した。2017年におけるスロベニアへのFDI総額はストック値で137億ユーロを記録し、対前年比で5.4%増加。前年度の増加幅7%から減少した。FDIの80%超をEU加盟国が占め、国別ではオーストリア、スイス、ドイツ、オランダ及びクロアチアが主な投資元。日本からのFDIは前年の2倍以上となる7100万ユーロを記録。2015年におけるスロベニアによるEDI総額はストック値で対前年比2.4%増となる54億6000万ユーロを記録。EDI総額の60%超は旧ユーゴ諸国向けの投資であり、クロアチア、セルビア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニアが主要投資先となった。

●スロベニア統計局、可処分所得及び人件費に関する統計を発表【22～23日】

22日、スロベニア統計局は、2017年の可処分所得の統計を発表した。全国の可処分所得の平均は、11,248ユーロで、前年より4.5%増加した。最も増加率が高かったのは、北部コロシュカ地域で9.8%増加し、12,352ユーロを記録。最も増加率が低かったのは、北東部のポムリエ地方で5.9%増加し、10,584ユーロとなった。統計局によれば、経済成長を背景に、可処分所得の増加率の地域差は年々拡大している。

23日、スロベニア統計局は、2017年の人件費の統計を発表した。平均人件費は、従業員一人あたり月額2,217ユーロ、前年比3.3%の増加となった。内訳は、85%が給与、その他の大部分が社会保障費である。最も人件費が高かったのは、電気・ガス業（3,594ユーロ）及び金融サービス業（3,306ユーロ）。他方、最も低かったのは、宿泊・外食産業の1,485ユーロ。なお、一時間あたりのコストは17ユーロで、EU平均の26.8を下回っている。



（写真：Nova 24TV）

●新リュブリャナ銀行（NLB）民営化に向けた動き【26日】

新リュブリャナ銀行の民営化に関し、株式公開プロセスが開始され、公開価格が51.50ユーロから66ユーロまでの間で設定されることが明らかとなった。同価格は、現在の市場動向を反映したものだが、政府が期待していた価格よりも低い。同銀行の価値は、総額10億から13億ユーロとなる見込み。専門家によれば、同銀行は、12%の自己資本利益率（ROE）を記録しており、スロベニア国内の投資機関の間でも購入意欲が高い。なお、スロベニア政府は、2013年までに同銀行に対して約15億ユーロの資本増強を行っている。注文予約期間は、10月29日から11月8日まで。

軍事・治安

●ポクルカル内相、EU国境沿岸警備部隊の創設に留保を表明【12日】

欧州司法内務大臣会合に出席したポクルカル内務大臣は、EUが1万人規模の恒久的な国境沿岸警備部隊の創設を計画していることに関し、加盟国からの要員派遣数、政策決定、財政及び創設までのタイムフレームに関し、より詳細な情報が必要であるとして留保を表明した。同大臣によれば、フランス、デンマーク、ギリシャを含む、複数の加盟国が同様な理由で留保を表明したと述べた。

社会・文化・スポーツ

●スロベニア政府観光局、新しいスローガンを発表【9日】

スロベニア政府観光局は9日、新しいスローガンを発表した。これまでのスローガン「I Feel Slovenia. Green. Active. Healthy」に代わる新しいスローガンは「I Feel Slovenia. My way」で、このスローガンは段階的に使わ

れはじめ、今後 3 年から 5 年間使われる見通しである。スローガンについて、同プロジェクトに携わるスロベニアのコミュニケーションエージェンシー「Yootree(ユートゥリー)」は、「モノよりもここでできる体験そのものを楽しみにスロベニアを訪れる人々がますます増えてきている。そういった人々は感動するような物語や、ユニークな瞬間といったものを好み、それはスロベニアが提供できるものである」と説明している。

●スロベニア人の女子クライミング選手が世界選手権で優勝【21日】

スロベニアの 10 代の有力なクライミング選手であるヤーニャ・ガンブレット(Janja Garnbret)選手が、中国で行われていたクライミングワールドカップの女子リード部門で 3 大会連続となる優勝を果たした。ガンブレット選手は準決勝で韓国のジェイン・キム選手と同率首位に並び、その後決勝が雨天により中止されたため、準決勝の結果をもとに優勝が決まった。ガンブレット選手は 9 月にも、クライミング世界選手権でコンバインド(3種複合)とボルタリング部門において優勝を果たした。

●旅行ガイド「Lonely Planet」がスロベニアを最も訪れるべき価値のある旅行先 10 選に選出【24日】

旅行ガイド「Lonely Planet」のポータルサイトが選ぶ、「2019 年に最も訪れるべき価値のある旅行先 10 選」にスロベニアが選ばれた。スロベニアはリストの 10 番目に挙がっており、「1 日のうちに、ヴェネチアの雰囲気漂う海辺の街ピランから、ドラマティックな山岳風景の中をドライブし、リュブリャナの中心地でディナーを楽しむことができる」というコメントとともに、レストランやワインショップもトップクオリティであると紹介された。



(写真: Total Slovenia News)

●リュブリャナ・マラソンが開催【27日, 28日】

27 日~28 日、リュブリャナにて、第 23 回リュブリャナマラソンが行われた。このマラソン大会はスロベニア国内で最も人気のあるマラソンイベントで、日曜日行われた 10km マラソン、ハーフマラソン、フルマラソンの参加者は合計 13,544 名にのぼった。今大会の優勝者はエチオピアの Sisay Lemma Kasaye(シセイ・レマ)選手で、コースレコードとなる 2 時間 4 分 58 秒を記録した。

●スロベニア、ユニセフの教育の平等性ランキングで 10 位にランクイン【30日】

ユニセフより教育格差についての調査結果が発表され、スロベニアは教育の平等性のランキングで EU および OECD 加盟国の 41 ヶ国中 10 位にランクインした。このランキングは、就学前教育(preschool)、初等教育(primary school)、中等教育(secondary school)に分けられており、就学前教育に関しては、体系的な学習に参加している子どもの割合、初等教育と中等教育においては、読解力テストの点数の最も低い生徒と最も高い生徒の差を指標として決められている。(※なお日本は第 8 位。)

●スロベニア、EUとの協力で、初となる人工衛星の打ち上げを計画【30日】

スロベニアが、2019 年上半期に、国として初の人工衛星 2 機を打ち上げを計画していることが判明した。それぞれ Trisat と NemoHD と呼ばれる 2 機の人工衛星は、EU の地球観測プログラムである「コペルニクスプログラム」とデータを合わせることで、農業、林業などの解決策の策定の助けとなることや、自然災害発生後に重要なデータを供給できるだろうと見込まれている。

トレイルランナー、宮地藤雄のスロベニア紀行

第5回

前回予告した通り、10月上旬にワールドカップ2018年最終戦に出場するため今年最後のスロベニア訪問をしてきました。朝晩はぐっと冷え込み1桁の気温、日中でもせいぜい15度ほど。しかも今回は雨がちと少し寒い中での滞在になりました。しかし幸いなことに、レースの日は暖かく時折陽射しが差し込んでくれ走りやすいレースに。結果は目標順位には届きませんでしたが思い切りよく走る事が出来、2018年シーズンの締めくりとしては来年に向け前向きになれるものとなりました。さて、今回は滞在中で初めて味わったワインの話をしてします。



宮地藤雄 (ミヤチフジオ)
2013~18 マウンテンランニング日本代表

スロベニアの隠れた名物



ワールドカップ終了後、現地在勤の日本人の方とリュブリャナにあるオススメのワイナリーを訪ねました。そこで勧められたのがオレンジワイン。初めて飲みましたが、とても飲みやすい上にどんな料理にも合うのです。ちなみにこのオレンジワインは赤ワインの製法(皮ごと)で、白ワインに使う皮が黄色や緑のブドウを用いて造られたものを指します。赤ワインと白ワインの両方の要素を併せ持つからどんな料理とも相性が良いのですね。真ん中の写真で僕が手に持っていますがまさにオレンジ色。そして満面の笑みから美味しさが伝わるはず。ここではソーセージやチーズはもちろん、タパススタイルで色々な料理をいただき大満足。「Vinoteka Storjia」というお店です。旧市街中心部からもすぐなので、リュブリャナでワインを飲みたくなったらオススメのお店です。

街中を歩くと、10月のリュブリャナはスポーツだけでなく食欲の秋であることを改めて感じます。市場のそばではフードフェスが開催されており、10月はいつも以上に気軽に、そして安価で様々な料理を楽しむ事が出来ます。ちょこちょこ食べ歩きができるのでこちらもオススメです。そしてひと段落するとクリスマスシーズンがやってきます。残念ながら時期的に僕が訪れる事が出来ませんが、イルミネーションとクリスマスマーケットで存分に楽しめるはず。冬場はとても寒くランニングどころではなくウィンタースポーツにシフトしてしまうので僕はなかなか渡航の機会を作れそうもないのですが、渡航の予定がある皆さんは是非とも足を運んでみてくださいね。それでは、次回の寄稿もお楽しみに！

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、スリや置き引きの被害が発生しています。被害場所が多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

【広報文化班からのお知らせ】

●着物着付けレクチャー・デモンストレーション開催！

着物デザイナーであり、スタイリストでもある富田信明氏を講師に迎え、着物の着付けレクチャー&デモンストレーションを行います。富田氏ご本人のデザインした独創性ある着物の着付けをご覧になれるまたとない機会です。リュブリャナ公演では数名のご来場者の方に着付けモデルをお願いする予定です。ぜひお越しください。

-会場及び日時:

○11月6日(火)午後7時30分～:リュブリャナ市図書館(Oton Župančič Library)4階ホール(Kersniknova 2, Ljubljana)

○11月7日(水)午前11時00分～:マリボル大学工学部(Faculty of Mechanical Engineering, University of Maribor, Smetanova 17, Maribor)

-共催:在スロベニア日本大使館,リュブリャナ市図書館,マリボル大学

-入場料：無料

●日本映画週間・開催！

キノ（シネマ）・ベジグラッドにおいて、4日間に渡り、下記日本映画の上映会が開催されます。ぜひお誘い合わせの上、ご来館ください。（スロベニア語の字幕付）

日時：

○11月12日（月）19時～：「人生、いろとりどり」（ヒューマンドラマ）

実話を元にした、過疎地に住む女性たちが新規ビジネスを立ち上げるストーリー。愛する場所で生活し、働くための新しい方法を見つけることを勇気づけるストーリーです。

○11月13日（火）17時～：「サバイバルファミリー」（コメディ）

電気がなくなった東京でどうやって生き残る？果たして東京から脱出できるのか？

○11月15日（木）17時～：「イヴの時間」（アニメーション）

アンドロイドが家庭用ロボットとして社会に進出した世界。若者とアンドロイドとの交流を描いた作品。

○11月16日（金）17時～：「クロユリ団地」（ホラー）

ある時、クロユリ団地に越してきた明日香。それ以降、彼女の周りでは次々と不可解な出来事が続いていく。彼女は無事生き延びることができるのか。

会場：シネマベジグラッド（Kino Bežigrad, Linhartova cesta 11）

共催：国際交流基金、在スロベニア日本大使館、シネマベジグラッド

※詳細は、以下のリンクからもご確認頂けます（スロベニア語）：<https://www.kino-bezigrad.si/teden-japonskega-filma/>